

# 近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編） の創刊によせて

教養・外国語教育センター長  
増田 大三

近畿大学における教養教育の一層の充実を目途して、再改組がなされた。その経過を簡単に振り返り、創刊の言葉としたい。

1991年、大学設置基準の大綱化により、一般教育と専門教育の区分、一般教育内の科目区分（一般（人文・社会・自然）、外国語、保健体育）が廃止され、一般教育課程ないし教養部の改組・解体が多くの大学で進行した。

しかし、近畿大学においては建学の理念の1つである「人格の陶冶」を実現すべく教養部を存続していたが、他大学の動向や専門教育を重視する学部からの要望もあり、2001年に教養部は改組され、教養教育の三本柱である一般教養教育は各学部、全学的に統一された運営が求められる外国語教育と健康スポーツ科学教育に関しては、語学教育部および健康スポーツ教育センターが責任を持って運営する組織体制となった。

以来、9年間、語学教育部と健康スポーツ教育センターは教育内容の充実を図り、カリキュラムを含めて全学的調整をしながら、その運営に並々ならぬ努力をしてきたことは評価されるものである。

ただ、大学教育変革のスピードが求められ、また、教養教育の重要性が再認識されている現在、より質の高い教養教育の実現を目指して、両組織を改廃し、各学部を教員を配属させる体制へと移行した。

また、組織的には、2001年の教養部改廃に伴い、学長を機構長として設置されている全学の一般教養教育の改善・改革を企画・立案・運営してきた「全学共通教育機構」のなかに、各学部から選出された教員によって構成される「一般教養教育推進部」と「教養外国語教育推進部」の2つの推進部で構成された「教養・外国語教育センター」を設置し、近畿大学の教養教育を総合的に検討・調整・運営する組織とし、教養教育の質的向上と充実を目指すことになった。

以上のような経過で、語学教育部と健康スポーツ教育センターの教員は学部所属になりましたが、各教員は教養教育の改革に取り組むだけでなく、旺盛かつ活発な研究活動を

続けています、そこで、一般教養教育推進部を中心に、近畿大学の一般教養教育の研究を広く世に問うために、「近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編）」を創刊するはこびとなりました。

一般教養教育推進部は、健康スポーツ教育センターに所属していた教員を中心に構成されており、創刊号は、健康スポーツ科学に関する論文を中心に発刊されますが、今後、一般教養教育科目担当者の陣容の充実を図ることによって、この紀要が今後ますます質・量ともに充実したものになり、近畿大学の教養教育の発展に寄与することを期待するとともに、この紀要に掲載します論文に多くのご批判やご助言をお願いする次第です。